

科目名		建築積算				
担当教員		野口 信彦		実務授業の有無	有	
対象学科		建築大工科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方		建築物のコストの成り立ちを理解する。 設計でも施工でも避けて通ることのできない業務であるため、実践に即した形で理解を進める。 テキストの例題を理解した後に演習問題を解き理解度を確認する。理解の足りていない部分を補った後に「確認テスト」で最終確認を行う。				
学習目標 (到達目標)		各工種のうち、これだけは知っておかねばならないという工種に絞り、積算の仕方を体得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		建築実務テキスト「建築積算」（市ヶ谷出版社） ワークシート、演習問題				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	建築積算概要			建築積算とは何か。建築積算の決まり事や役割を理解する。		
2	積算実践（土工・地業）			根切、埋戻し、地業の関連がわかり、土工の数量が拾える。 （ワークシートの記入、提出）		
3	積算実践（コンクリート）			①基礎②柱③梁④床板（スラブ）⑤壁のコンクリートの数量が拾える。 （ワークシートの記入、提出）		
4	積算実践（型枠）			①基礎②柱③梁④床板（スラブ）⑤壁の型枠の数量が拾える。 （ワークシートの記入、提出）		
5	積算実践（仕上）			もっとも関わる頻度が多い内外装仕上の数量が正確に拾える。（ワークシートの記入、提出）		
6	演習問題			演習問題（1～8）を解き、理解度を確認する。		
7						
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
評価テスト 80 %		取組姿勢 20 %			解説を聴きながら、ワークシートを作成し各テーマについて学習する。 （必ず電卓を持参すること。）積算はコストを左右する重要な業務でありながら、社会では「できて当たり前」と考えられている。各テーマごとの演習が重要なので、真剣に取り組んでほしい。（※自筆ワークシートは評価テストに持込可とする。）	
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
実務経験教員の経歴						
		設計事務所にて設計業務に11年従事				